

令和6年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和6年8月8日（木）午後2時～

【場 所】 豊田市役所 南51会議室（南庁舎5階）

【出席者】（委 員） 伊藤 央二 （中京大学スポーツ科学部 教授）《会長》
粕谷 浩二 （（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事）《副会長》
岩月 幸雄 （豊田市健康づくり協議会 会長）
梅村 郁仁 （（株）名古屋グランパスエイト 広報・ホームタウン部 部長）
桑原 大輔 （トヨタ自動車(株)トヨタスポーツ推進部スポーツアセットG グループ長）
清水 弥生 （（一社）豊田市身障協会 副会長）
田口 賢一 （愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長）
西脇 委千弘 （（株）豊田スタジアム 取締役）
仁村 保郎 （豊田市スポーツ推進委員協議会 会長）
野尻 雅代 （公募委員）
築瀬 歩 （豊田市地域スポーツクラブ会議 委員）

【欠席者】（委 員） 谷山 由香利 （豊田市女性スポーツ団体協議会 会長）
手嶋 道雄 （豊田市スポーツ少年団 本部長）
安藤 貴通 （公募委員）

【事務局】 曾我 史人（生涯活躍部副部長） 中野 洋介（スポーツ振興課課長）
太田 栄一郎（スポーツ振興課主幹） 阿垣 一大（スポーツ振興課副課長）
榎津 祐樹（スポーツ振興課担当長） 藤村 修祐（スポーツ振興課担当長）
宇佐美 雅也（スポーツ振興課担当長） 北田 青空（スポーツ振興課主事）
太田 麻里花（スポーツ振興課主事）

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 事務局挨拶
2 会長挨拶
3 議題
（1）第4次豊田市生涯スポーツプランの振り返りと
第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けた意見交換
（2）第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたスケジュール（予定）【報告】
（3）部活動地域移行の進捗状況等について
4 その他

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（1）第4次豊田市生涯スポーツプランの振り返りと第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けた意見交換

事務局：資料に基づき、第4次豊田市生涯スポーツプランの進捗状況、第5次スポーツプランの策定議題について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：①スポーツ施設無料化の対象拡大について、どのような効果があったのか。以前豊田スタジアムのプールを利用しようとした際2時間待ちだった。使用料を無料にしても結局利用ができなかったら意味がないのではないか。

②豊田市は様々なイベントや教室を開いているが子どもたちを連れて行かないと体験の機会が得られない。教室やイベントだけでなく、日常的にスポーツと接することができる取組があると親としては安心。

事務局：①利用料無料については、気軽に個人で利用できるプール、スカイホールのジムは利用が増えている。その中で利用制限がかかってしまっていることへの必要な対応は今後検討していく。

②送迎が不要なものとしては、多くの学校の授業で子どもが体験できる走り方教室などの取組を行っている。

委 員：部活動時間減少の影響を受けてか中学生が公園を占領している。中学生が遊んでいると小さい子どもは遊べないことから公園など遊び場の整備を行ってほしい。

事務局：競技スポーツだけでなく体を動かすこと自体をスポーツと定義しているので、議論の範疇だと考える。

会 長：「子どもが楽しくスポーツに取り組める機会の提供」は現在の重点取組になっており、第5次生涯スポーツプランでも重点取組になってくると考えられるため、しっかりと検討してほしい。

委 員：過去の生涯スポーツプランにおいて、スポーツの定義を定めてプランを進めてきた中で、このタイミングで改めてスポーツの定義について意見を交わす意義を教えてください。

事務局：e スポーツをはじめスポーツの捉え方が変化してきている中で、第5次生涯スポーツプランにおいてスポーツをどのように捉えていくべきか、ご意見を伺いたい。

委 員：スポーツにどのような効果を期待しているかを明確にすることによって、e スポーツを含めたスポーツ振興の方向性が自ずと決まってくるのではないか。

事務局：過去の生涯スポーツプランにおけるスポーツの定義の大枠は変わっていないが時代に合わせて若干変更しているところもある。スポーツにどのような効果を期待するかを再度考える必要がある。健康づくり、生きがいづくり等の目的を持ったうえで主体的に体を動かすことをスポーツと定義するなら、外出が困難になった方にとってはe スポーツが健康づくり、生きがいづくりにつながる可能性もある。第5次生涯スポーツプランではスポーツに期待する効果についてしっかり考えていきたい。

会 長：現状、スポーツ庁はe スポーツを明確にスポーツの定義に含めていない。スポーツの定義についてはしっかりとした議論が必要。また、ニーズがあるのかどうかも調査が必要。

委員：現在小学生は暑さ対策のため夏は外で遊べない、プールにも入れないことがある。そんな中、スイミングスクールでの水泳授業や、体育館や武道場の空調設置など学校は市の施策に助けられている。しかし空調をつけるとスペースの関係でバスケットの正式な大会ができないなどの課題はある。また少子化などの影響で中学校のチームスポーツの部員が足りていないため合同チームでの出場が多くなってきている。スカイホール豊田は、バスケットボール西三河大会、ハンドボール県大会の会場にもなっており、子どもたちにとって「聖地」になっている。ただ、なかなか予約が取れないことも多く、前日準備の時間が取れず朝からの準備を余儀なくされている。夢の教室事業でのスポーツ選手や、パラアスリートとのふれあいは子どもたちの夢が膨らむ良い取組だと思う。

委員：①パラアスリートの授業はどの種目の評判が良かったのか。②障がい者のスポーツ実施率について、17.8%を40%にするためには具体的にどのように対応するのか。現状、障がい者が利用する福祉会館は、昨今の暑さで使えていない。また、高齢者や障がい者の移動手段がないことや指導員不足も課題。

事務局：①トヨタ自動車のパラアスリートでパラスキーや円盤投げの選手に登壇いただきお子どもたちに大好評だった。②障がい者のスポーツ実施率を上げるには多方面からのアプローチが必要。障がい者や支援者のニーズを調査して必要な対策を講じていきたい。また、スポーツ施設へのエアコン導入の必要性も感じている。

委員：当事者に話を聞くことも大切。

会長：障がい者のスポーツ実施率については基準値をとっていないので、今後数値をしっかりと追っていく必要がある。

委員：スポーツの認知度について、2021年度から2022年度の1年間で10～30%下がっているがアンケートの対象者はどのような方か。

事務局：2021年度は豊田市が公募したEモニター約200名に回答いただいた。そのため、実態よりも高い値が出ている可能性が高い。2022年度は無作為抽出で市内約3000人から回答いただいた。今年度は2022年度に近い形でアンケートを実施する予定。

委員：トヨタ自動車でも地域貢献活動を行っており、何かできることあれば手伝いたい。イベントを行っても来ていただかないと意味がないため、広報の仕方も改善しながら実施していきたい。

委員：第4次生涯スポーツプランの進捗状況について未達成の指標についてだけでなく、達成した指標についてもどういった取組が効果的だったのか分析し、共有していただけるとよい。

また、施設管理をしている立場として、重大事故が発生しない努力をするのは当たり前だが、事故件数よりも利用者の利便性向上に資するような指標を設けた方がよいのではないかと。また、新たな取組も大切だが、既存の事業をしっかりと生かしてスポーツ振興を行っていくことが大切だと思う。

委員：市内の体育館に今後空調を導入する予定はあるか。

事務局：準備段階。予算を伴う話なので確約はできないが快適なスポーツ環境の整備のため、設置に向けて調整していきたい。

委員：スカイホール豊田の場合は午前8時台についても料金設定されているが、他の施設

は定めがない。そのため、多くの施設では、大会準備のための早朝利用をサービスの範疇で行っているのが実情。今後、暑さ対策で早期の利用も想定されるため、市の条例改正などの課題はあると思うが、料金設定についても検討いただきたい。また、第4次スポーツプランでは触れられていないが、次期プランでは豊田市の健康づくり計画とも連携を図っていくべき。

会 長：スポーツツーリズムという観点では、豊田市の観光実践計画とも整合性を図っていくことが必要。

■ 議題（2）第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたスケジュール（予定）【報告】

事務局：資料に基づき、第5次豊田市生涯スポーツプラン策定に向けたスケジュールについて説明

■ 議題（3）部活動地域移行の進捗状況等について

事務局：資料に基づき、部活動地域移行の進捗状況等について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：市内全ての中学校が豊田市の示す地域移行の方向性に賛同しているのか。また、この方向性は既に決定していることなのか。

事務局：中学校には何度も説明し一定の理解を得ている。様々な関係者の意見を踏まえ、9月には方向性（プラン骨子）を固めたいと考えている。

委 員：地域でスポーツ活動する目的について聞きたい。部活動は教育活動の一環として生きる力を育むという目的があったが、この目的は変わるのか。目的が変わらないのであれば指導者の研修内容としてコーチングは不要なのではないか。

事務局：地域クラブ活動の目的は部活動を継承、発展させ、さらに地域スポーツを振興するというもの。部活動と目的が変わらないため、学校と関りが深い地域学校共働本部を運営主体とした。コーチングには様々な種類がある。その中でも技術ではなく、子どもたちを励まし、やる気を引き出すことに特化したコーチングを考えている。

委 員：教員が引き続き指導者として関わりたい場合はどうなるのか。そういったニーズも少なからずあるのでは。

事務局：令和8年からは教員も兼業の届出を提出することで、地域指導者として参加可能となる予定。

委 員：地域ごとに強み、弱みがある。地域スポーツクラブがある地域や自治区のコミュニティがしっかりしている地域もあるため、柔軟な運用を検討してほしい。

委 員：①怪我した場合の責任をだれが負うのか。②地域移行はどの地区も平等に移行できるよう、市が指揮を執ってくれるのか。③今すでにあるクラブチームについては解散するのか。

事務局：①運営の主体は市であるため最終的な責任は市が負う。ただし、指導の仕方に瑕疵がある場合や施設起因の事故等、様々な事例が考えられるため、その都度確認が必要。なお、関係者全員（子ども、地域指導者等）の保険加入を考えている。

②地域差が出ないよう市が主導してコーディネートしていく。

③まずは、現行の部活動をそのまま地域クラブ活動として継承していく。現在も中学生のスポーツ活動は地域スポーツクラブ始め様々な活動に支えられている。その

バランスは崩さないよう進めたいと考えているため、今あるクラブチームの解散を促すようなことはしない。

委員：全国中学校体育大会が変わらない限り今の体系（大会運営を教員が調整する体系）は変わらない。指導者は1人で一週間対応できる人もいれば4人いても対応できない場合もある。現時点では、平日まですべて部活動を任せるのは難しいと思う。部活動地域移行について尽力いただき、感謝している。部活動地域移行には相当な力が必要だと感じる。学校教育においてもいろいろな方々に支えていただいております、大変助かっている。

委員：地域指導者について人材バンクは個人が対象となっていたが、民間のスポーツ団体が日頃の指導を請け負える可能性はあるか。

また、民間のチームのコーチが指導員になることは可能か。

事務局：団体に請け負っていただくことは考えていないが、個人であればどのような方でも登録可能のため、是非協力いただきたい。

委員：地域クラブ活動の運営を一体的にどこかのチームにお願いすることは考えているか。

事務局：現時点では考えていない。

会長：地域クラブ活動に参加する子で上手な子については、セレクションを受けることができるよう、市と民間のチームをつなぐ仕組みがあるとよい。

委員：子どもがスポーツに接する機会が減っていることを危惧している。少しでもスポーツをする機会の提供に役立てればと思う。

会長：地域スポーツも良いがその先のプロスポーツも視野に入れられるとよい。

委員：平日指導できる人数は分からない状況か。

事務局：まだ地域指導者に平日は参加してもらってないため把握できていない。現在土日に参加していただいている地域指導者 530 名のうち、約 300 名が会社員、120 名は学生。このことから約 300 名は平日に指導するのは難しいと思われる。

平日の指導者をどう確保していくかという課題は、モデル事業を今年度に前倒しして行い、その中で検討していきたい。また「見守り」という区分を設けることで、例えば休日に指導者が平日の練習メニューを子どもに提示し、平日は地域の大人で子どもの活動を支えるような方法も考えている。それでも指導者が確保できない場合は、事業者委託などを含めたあらゆる可能性を検討し、子どもたちの活動に影響が出ないように取組を進めていきたい。

■その他

委員：障がい者スポーツの実施率が上がらないのはパラスポーツでなく、アダプテッドスポーツ、ユニバーサルスポーツを推進しないことが原因に挙げられるのではないか。ユニバーサルスポーツを進めることによって健常者のスポーツ実施率も上がると考えられる。パラスポーツだけに拘る必要はない。

委員：パラスポーツ以外も推進すべきだと思う。

事務局：障がいの有無や年齢にかかわらず幅広く市民スポーツを推進していきたいので次期プラン策定の際に検討させていただく。

以上